

明日に向かってリサイクル!

すいっとり

第一回 特集

長久手市ごみ減量大作戦

ごみの減量と分別にご協力ください!

環境課 ☎56-0612

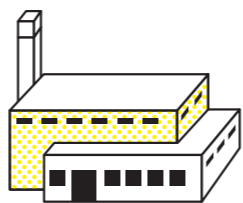
長久手市で発生するごみは、**年間約10,000トン**で、処理するために**年間約4億4,000万円**の費用がかかっています。



各家庭から収集したごみは、尾張旭市にあるごみ処理施設「晴丘センター」で処理されています。しかし、施設が稼働して約30年が経ち、老朽化が進んでいるため、延命化工事を実施しています。さらに**10年後には、施設の建て替え時期を迎えることとなり、何百億円という莫大なお金が必要になります。**



ごみを処理するには、ごみ処理施設までの収集運搬費や処理費、施設の維持管理費などで、**1世帯あたり年間約18,000円の負担**となっています。



長久手市には、尾張旭市にあるようなごみ処理施設も、瀬戸市にあるようなごみ最終処分場もありません。他市以上にごみの減量に取り組む必要があります。

今後、ごみ減量化にさらに力を入れて、市全体の運動にしていきたいと考えていますので、みなさんのご協力をお願いします。

最新のごみ量

本市では、令和5年度の市民1人1日あたりのごみ排出量の**目標値を431g**としています。しかし、令和2年度中に家庭から出た市民1人1日あたりのごみ排出量は**510g**となっており、**1人1日79gの減量が必要です。**資源回収で出せるものがないかももう1度チェックして、さらなるごみ減量に取り組みましょう。小さいごみ袋で出せるようになれば袋代の節約にもなり、一石二鳥の効果があります。

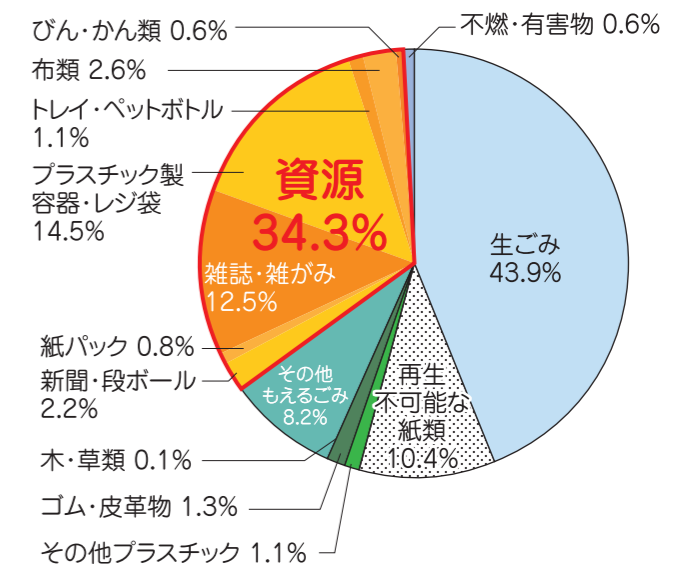


現在
510g

目標
**令和5年度
431g**

分ければ資源、混ぜればごみ

本市におけるごみ排出量の特性を把握するために、家庭から出るもえるごみの袋の中をチェックする組成調査を実施しています。直近の調査では、もえるごみ袋の中の**34.3%が資源として分別できる**ものだったという結果が出ており、分別を徹底することで、ごみを減らすことができます。



次回(8月号)では、もえるごみ袋に特に多く混入している「プラスチック製容器包装」や「雑がみ」の分別について紹介します。

※ちなみに「広報ながくて」は古紙として分別できます。